

「三角形の面積」についての考察

よねえ よしのり
米江 慶典

§1. はじめに

高等学校における「三角形の面積」についての学習内容は、大学入試をはじめとして基礎となる指導事項の一つです。ここで、少し考えてみたいと思います。

§2. 基礎定理

「三角形の面積」に関する基礎的な定理を準備します。

【定理1】 三角形の面積 I

三角形の面積を S とする。

- (1) 2 辺の長さを $a (=|\vec{a}|)$, $b (=|\vec{b}|)$ とし、その間の角を $\theta (0 < \theta < \pi)$ とするとき

$$S = \frac{1}{2} ab \sin \theta = \frac{1}{2} |\vec{a}| |\vec{b}| \sin \theta$$

- (2) $\triangle OAB$ について

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2}$$

- (3) 3 頂点の座標が $(0, 0)$, (x_1, y_1) , (x_2, y_2) のとき

$$S = \frac{1}{2} |x_1 y_2 - x_2 y_1|$$

- (4) 3 頂点の座標が (x_1, y_1) , (x_2, y_2) , (x_3, y_3) のとき

$$S = \frac{1}{2} |(x_2 - x_1)(y_3 - y_1) - (x_3 - x_1)(y_2 - y_1)|$$

(証明) (1) θ が鋭角, 直角, 鈍角の場合について示せばよい。

(2) (1) と内積の定義から直ちに証明される。

(3) (2) において, $\vec{OA} = (x_1, y_1)$, $\vec{OB} = (x_2, y_2)$ とすればよい。

(4) (3) から直ちに証明される。 終

(補足) (2) は空間図形においても適用できる。

【定理2】 三角形の面積 II

3 辺の長さが a, b, c である三角形 ABC の面積 S は, この三角形の外接円の半径および内接円の半径をそれぞれ R, r とするとき

$$(1) S = \frac{1}{2} (a + b + c) r = rs$$

ただし, $s = \frac{a + b + c}{2}$

$$(2) S = \frac{c^2 \sin A \sin B}{2 \sin(A + B)} \quad (\text{一辺とその両端の角が与えられている})$$

$$(3) S = 2R^2 \sin A \sin B \sin C$$

$$(4) S = \frac{abc}{4R}$$

(証明) $A + B + C = \pi$ のもとで考える。

- (1) $\triangle ABC$ の内心を

I とおくと

$\triangle ABC$

$$= \triangle IAB + \triangle IBC + \triangle ICA$$

が成り立つことから直ちに証明される。

- (2), (3), (4)

正弦定理と定理1の(1)から直ちに証明される。 終

【定理3】 三角形の面積 III (ヘロンの公式)

3 辺の長さが a, b, c である三角形 ABC の面積 S は

$$S = \sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$$

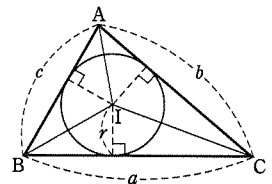
ただし, $s = \frac{a + b + c}{2}$

(証明) $\sin^2 A = 1 - \cos^2 A = (1 + \cos A)(1 - \cos A)$

$$= \left(1 + \frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}\right) \left(1 - \frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}\right)$$

$$= \frac{(2bc + b^2 + c^2 - a^2)(2bc - b^2 - c^2 + a^2)}{4b^2c^2}$$

$$= \frac{\{(b+c)^2 - a^2\} \{a^2 - (b-c)^2\}}{4b^2c^2}$$



$$= \frac{(b+c+a)(b+c-a)(a+b-c)(a-b+c)}{4b^2c^2}$$

$$= \frac{2s \cdot 2(s-a) \cdot 2(s-c) \cdot 2(s-b)}{4b^2c^2}$$

$$\therefore S = \frac{1}{2}bc \sin A$$

$$= \frac{1}{2}bc \sqrt{\frac{4s(s-a)(s-b)(s-c)}{b^2c^2}}$$

$$= \sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$$

終

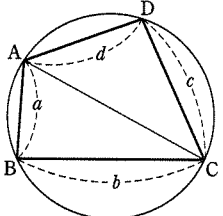
§3. 考察

幾つかの定理を前述の定理を用いて考えます。

定理4は、一般的に教科書では具体的な数値を与え、定理6の(1)との融合で紹介していることが多いです。

【定理4】 円に内接する四角形の面積

4辺の長さが a, b, c, d である四角形 $ABCD$ が円に内接しているとき、この四角形 $ABCD$ の面積 S は



$$S = \sqrt{(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)}$$

ただし、 $s = \frac{a+b+c+d}{2}$

(証明) $S = \frac{1}{2}ab \sin B + \frac{1}{2}cd \sin D$

$$= \frac{1}{2}ab \sin B + \frac{1}{2}cd \sin(\pi - B)$$

$$= \frac{1}{2}ab \sin B + \frac{1}{2}cd \sin B$$

$$= \frac{1}{2}(ab + cd) \sin B$$

両辺を2乗して

$$4S^2 = \sin^2 B (ab + cd)^2 = (1 - \cos^2 B)(ab + cd)^2$$

$$= (1 + \cos B)(1 - \cos B)(ab + cd)^2 \dots\dots\dots ①$$

ここで $AC^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos B,$

$$AC^2 = c^2 + d^2 + 2cd \cos B$$

よって $a^2 + b^2 - 2ab \cos B = c^2 + d^2 + 2cd \cos B$

$$\therefore \cos B = \frac{a^2 + b^2 - (c^2 + d^2)}{2(ab + cd)} \dots\dots\dots ②$$

あとは、②を①へ代入して整理すればよい。

$$4S^2 = \left\{ 1 + \frac{a^2 + b^2 - (c^2 + d^2)}{2(ab + cd)} \right\}$$

$$\times \left\{ 1 - \frac{a^2 + b^2 - (c^2 + d^2)}{2(ab + cd)} \right\} (ab + cd)^2$$

$$= \frac{\{(a+b)^2 - (c-d)^2\} \{(c+d)^2 - (a-b)^2\}}{4}$$

$$= \frac{(2s-2d)(2s-2c)(2s-2b)(2s-2a)}{4}$$

$$= 4(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)$$

$$\therefore S = \sqrt{(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)}$$

終

定理5は、三角関数の基礎知識も使い証明できます。

【定理5】 三角形とその外接円および内接円に関する諸定理

3辺の長さが a, b, c である三角形 ABC の面積を S 、この三角形の外接円の半径および内接円の半径をそれぞれ R, r とし、 $s = \frac{a+b+c}{2}$ とするとき

- (1) $r = \sqrt{\frac{(s-a)(s-b)(s-c)}{s}}$
- (2) $r = 4R \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2}$
- (3) $s = 4R \cos \frac{A}{2} \cos \frac{B}{2} \cos \frac{C}{2}$
- (4) $S = \frac{(s-a)(s-b)(s-c)}{r}$

(証明) $A+B+C=\pi$ のもとで考える。

(1) 定理2の(1)と定理3より

$$(S)rs = \sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$$

$$\therefore r = \sqrt{\frac{(s-a)(s-b)(s-c)}{s}}$$

(2) $\triangle ABC$ の内心を I とし、 I から BC に下ろした垂線の足を H とする。

このとき、正弦定理より

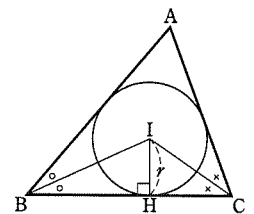
$$BH + HC = BC$$

$$= 2R \sin A$$

ここで $BH = \frac{r}{\tan \frac{B}{2}}, HC = \frac{r}{\tan \frac{C}{2}}$

であるから

$$\frac{r}{\tan \frac{B}{2}} + \frac{r}{\tan \frac{C}{2}} = 2R \sin A$$



$$\begin{aligned} \therefore r &= 2R \sin A \cdot \frac{1}{\frac{1}{\tan \frac{B}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{C}{2}}} \\ &= 4R \sin \frac{A}{2} \cos \frac{A}{2} \cdot \frac{\sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2}}{\sin \frac{C}{2} \cos \frac{B}{2} + \cos \frac{C}{2} \sin \frac{B}{2}} \\ &= 4R \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \\ \left[\because \sin \frac{C}{2} \cos \frac{B}{2} + \cos \frac{C}{2} \sin \frac{B}{2} \right. \\ &= \sin \left(\frac{C}{2} + \frac{B}{2} \right) = \sin \left(\frac{\pi}{2} - \frac{A}{2} \right) = \cos \frac{A}{2} \left. \right] \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (3) \quad s &= \frac{a+b+c}{2} \\ &= \frac{1}{2} \cdot r \cdot \left\{ \left(\frac{1}{\tan \frac{B}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{C}{2}} \right) \right. \\ &\quad \left. + \left(\frac{1}{\tan \frac{C}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{A}{2}} \right) + \left(\frac{1}{\tan \frac{A}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{B}{2}} \right) \right\} \\ &= \left(4R \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \right) \\ &\quad \times \left(\frac{1}{\tan \frac{A}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{B}{2}} + \frac{1}{\tan \frac{C}{2}} \right) \quad (\because (2)) \\ &= \left(4R \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \right) \\ &\quad \times \left(\frac{\cos \frac{A}{2}}{\sin \frac{A}{2}} + \frac{\cos \frac{B}{2}}{\sin \frac{B}{2}} + \frac{\cos \frac{C}{2}}{\sin \frac{C}{2}} \right) \\ &= 4R \left\{ \left(\sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \cos \frac{A}{2} \right. \right. \\ &\quad \left. \left. + \sin \frac{A}{2} \sin \frac{C}{2} \cos \frac{B}{2} \right) + \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \cos \frac{C}{2} \right\} \\ &= 4R \left(\sin \frac{C}{2} \cos \frac{C}{2} + \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \cos \frac{C}{2} \right) \\ &= 4R \cos \frac{C}{2} \left(\sin \frac{C}{2} + \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \right) \\ &= 4R \cos \frac{C}{2} \left\{ \cos \left(\frac{A}{2} + \frac{B}{2} \right) + \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \right\} \\ &= 4R \cos \frac{A}{2} \cos \frac{B}{2} \cos \frac{C}{2} \end{aligned}$$

(4) (1)と定理3より

$$\begin{aligned} rS &= \sqrt{\frac{(s-a)(s-b)(s-c)}{s}} \cdot \sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)} \\ &= (s-a)(s-b)(s-c) \quad \text{終} \end{aligned}$$

定理6の証明は、次の補題を準備してから入ります。

【補題】 「接線の長さ」に関する定理

円に外接する四角形の向かい合う辺の長さの和は、他の向かい合う辺の長さの和に等しい。

(証明) 図のように四角形 ABCD が点 P, Q, R, S で円に接し、AB=a, BC=b, CD=c, AD=d とおく。

このとき、AB, AD は円に接するから

$$AP=AS$$

同様に

$$BP=BQ$$

$$CQ=CR$$

$$DR=DS$$

よって

$$a+c=b+d \quad \text{終}$$

(補足) 円の外部の点から円に接線を引いたとき、外部の点と接点の間の距離を 接線の長さ という。

【定理6】 円に内接する四角形に関する諸定理

4辺の長さが a, b, c, d である四角形 ABCD が円に内接しているとき

(1) 対角線の長さは

$$AC = \sqrt{\frac{(ad+bc)(ac+bd)}{ab+cd}},$$

$$BD = \sqrt{\frac{(ab+cd)(ac+bd)}{ad+bc}}$$

(2) さらにこの四角形が他の円に外接しているとき、この四角形 ABCD の面積 S は

$$S = \sqrt{abcd}$$

(証明) (1) $\angle ADC = \theta$ とする。このとき、

$\triangle ABC$ と $\triangle ADC$ に余弦定理を適用して

$$AC^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos(\pi - \theta)$$

$$= a^2 + b^2 + 2ab \cos \theta \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

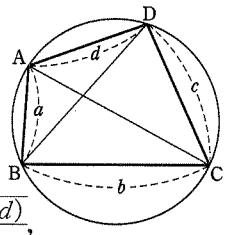
$$AC^2 = c^2 + d^2 - 2cd \cos \theta \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1} \times cd + \textcircled{2} \times ab$ より

$$(ab+cd)AC^2 = cd(a^2+b^2) + ab(c^2+d^2)$$

$$\therefore (ab+cd)AC^2 = (ad+bc)(ac+bd)$$

よって、 $AC > 0$ であるから



$$AC = \sqrt{\frac{(ad+bc)(ac+bd)}{ab+cd}}$$

$$BD = \sqrt{\frac{(ab+cd)(ac+bd)}{ad+bc}} \text{ も同様。}$$

(2) この四角形が他の円に外接しているのだから

$$a+c=b+d$$

よって、定理4において

$$s=a+c=b+d$$

$$\therefore s-a=c, s-b=d, s-c=a, s-d=b$$

$$\therefore S = \sqrt{(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)}$$

$$= \sqrt{c \cdot d \cdot a \cdot b} = \sqrt{abcd}$$

終

(補足) (1) から

$$AC \cdot BD$$

$$= \sqrt{\frac{(ad+bc)(ac+bd)}{ab+cd}} \times \sqrt{\frac{(ab+cd)(ac+bd)}{ad+bc}}$$

$$= \sqrt{(ac+bd)^2}$$

$$= ac+bd$$

$$= AB \cdot CD + BC \cdot DA$$

となり、トレミーの定理を導くことができる。

最後に、次の定理を述べます。証明の過程で「相加平均と相乗平均の大小関係」を用いるなど興味深い定理といえます。

【定理7】 一つの三角形の外接円の半径と内接円の半径との関係

一つの三角形の外接円の半径および内接円の半径をそれぞれ R, r とするとき

$$R \geq 2r$$

が成り立つ。

三角形を ABC とし、3辺の長さを a, b, c とする。また、 $A+B+C=\pi$ のもとで考える。

(証明1) ヘロンの公式の利用

$\triangle ABC$ の面積 S は、定理2の(1), (3)から、 R, r のそれぞれを用いて

$$S = \frac{abc}{4R}, S = \frac{r(a+b+c)}{2}$$

と表せることから $\frac{r}{R} = \frac{8S^2}{abc(a+b+c)}$

よって、 $s = \frac{a+b+c}{2}$ とおくと、ヘロンの公式より

$$\frac{r}{R} = \frac{8s(s-a)(s-b)(s-c)}{abc \cdot 2s}$$

$$= \frac{4(s-a)(s-b)(s-c)}{abc}$$

ここで2変数の相加平均と相乗平均の大小関係より $\frac{a}{2} = \frac{2s-b-c}{2} = \frac{(s-b)+(s-c)}{2} \geq \sqrt{(s-b)(s-c)}$ である。

同様に $\frac{b}{2} \geq \sqrt{(s-c)(s-a)}, \frac{c}{2} \geq \sqrt{(s-a)(s-b)}$

であるから、辺々を掛け合わせると

$$(s-a)(s-b)(s-c) \leq \frac{abc}{8}$$

が得られるので $\frac{r}{R} \leq \frac{1}{2}$ すなわち $R \geq 2r$

が得られる。等号成立は

$$s-a=s-b=s-c$$

すなわち $a=b=c$

のときである(三角形が正三角形のとき)。終

(証明2) 定理5の(2)からの考察

定理5の(2)から

$$\frac{r}{R} = 4 \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \dots\dots \textcircled{1}$$

よって $\sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \leq \frac{1}{8}$ を示せばよい。

A を固定して考えると、 $A+B+C=\pi$ であるから

$$\sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} = \frac{1}{2} \left(\cos \frac{B-C}{2} - \cos \frac{B+C}{2} \right)$$

$$= \frac{1}{2} \left(-\sin \frac{A}{2} + \cos \frac{B-C}{2} \right) \leq \frac{1}{2} \left(1 - \sin \frac{A}{2} \right)$$

(等号成立は $B=C$ のとき)

$$\therefore \sin \frac{A}{2} \sin \frac{B}{2} \sin \frac{C}{2} \leq \frac{1}{2} \sin \frac{A}{2} \left(1 - \sin \frac{A}{2} \right)$$

となる。あとは、 A の関数とみればよい。

$\sin \frac{A}{2} = t$ とおき $f(t) = t(1-t)$ を考える。

2変数関数の相加平均と相乗平均の大小関係より

$$t+(1-t) \geq 2\sqrt{t(1-t)} \quad (>0)$$

$$\therefore \{t+(1-t)\}^2 \geq 4t(1-t) \quad \therefore t(1-t) \leq \frac{1}{4}$$

よって、証明された。等号成立は

$$t=1-t \quad \therefore t = \frac{1}{2} \quad \therefore \sin \frac{A}{2} = \frac{1}{2}$$

$$0 < \frac{A}{2} < \frac{\pi}{2} \text{ より } A = \frac{\pi}{3}$$

これと $B=C$ とから

$$A=B=C = \frac{\pi}{3}$$

のときである(三角形が正三角形のとき)。終

(補足) $f(t) \leq \frac{1}{4}$ の証明は当然、平方完成でもできる。

(証明3) ヘロンの公式を利用しない

正弦定理と定理2の(1), (3)から

$$\begin{aligned} & \frac{1}{2}(2R\sin A + 2R\sin B + 2R\sin C)r \\ &= 2R^2\sin A\sin B\sin C \end{aligned}$$

$$\text{したがって } \frac{r}{R} = 4 \cdot \frac{\sin A\sin B\sin C}{2(\sin A + \sin B + \sin C)} \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

となる。

$$\begin{aligned} & \sin A + \sin B + \sin C \\ &= \sin A + \sin B + \sin\{\pi - (A+B)\} \\ &= \sin A + \sin B + \sin(A+B) \\ &= (\sin A + \sin B) + \sin\left(2 \cdot \frac{A+B}{2}\right) \\ &= 2\sin\frac{A+B}{2}\cos\frac{A-B}{2} + 2\sin\frac{A+B}{2}\cos\frac{A+B}{2} \\ &= 2\sin\frac{A+B}{2}\left(\cos\frac{A-B}{2} + \cos\frac{A+B}{2}\right) \\ &= 2\sin\frac{A+B}{2} \times 2\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2} \\ &= 2^2\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2}\cos\frac{C}{2} \\ & \sin A\sin B\sin C \\ &= 2^3\sin\frac{A}{2}\sin\frac{B}{2}\sin\frac{C}{2}\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2}\cos\frac{C}{2} \end{aligned}$$

よって、②から

$$\begin{aligned} \frac{r}{R} &= 4 \cdot \frac{\sin A\sin B\sin C}{2(\sin A + \sin B + \sin C)} \\ &= 4 \cdot \frac{2^3\sin\frac{A}{2}\sin\frac{B}{2}\sin\frac{C}{2}\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2}\cos\frac{C}{2}}{2 \cdot 2^2\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2}\cos\frac{C}{2}} \\ &= 4\sin\frac{A}{2}\sin\frac{B}{2}\sin\frac{C}{2} \end{aligned}$$

となり、①に帰着される。以下は、(証明2)と同様である。 終

(証明4) 3変数の相加平均と相乗平均の大小関係と正弦の凸性を利用する

$\sin A, \sin B, \sin C > 0$ より

$$\frac{\sin A + \sin B + \sin C}{3} \geq \sqrt[3]{\sin A\sin B\sin C}$$

したがって

$$\left(\frac{\sin A + \sin B + \sin C}{3}\right)^3 \geq \sin A\sin B\sin C \quad \dots\dots\textcircled{3}$$

$$\begin{aligned} \text{いま } \frac{r}{R} &= \frac{2\sin A\sin B\sin C}{\sin A + \sin B + \sin C} \\ &\leq \frac{2\left(\frac{\sin A + \sin B + \sin C}{3}\right)^3}{\sin A + \sin B + \sin C} \quad (\because \textcircled{3}) \\ &= \frac{2}{3}\left(\frac{\sin A + \sin B + \sin C}{3}\right)^2 \end{aligned}$$

ここで“ $y = \sin x$ のグラフは $0 < x < \pi$ で上に凸” ……①

だから

$$(0 <) \frac{\sin A + \sin B + \sin C}{3} \leq \sin\frac{A+B+C}{3}$$

よって

$$\frac{r}{R} \leq \frac{2}{3} \cdot \left(\sin\frac{A+B+C}{3}\right)^2 = \frac{2}{3} \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = \frac{1}{2} \quad \text{終}$$

(補足) (証明4)において、③は明らかとした。

§4. 最近の大学入試問題

定理7において、特に、 $R=1$ の場合が京都大学で出題されています。

平面上の点Oを中心とし半径1の円周上に相異なる3点A, B, Cがある。 $\triangle ABC$ の内接円の半径rは $\frac{1}{2}$ 以下であることを示せ。
[2006年(平成18年)京都大後期(理系)第4問]

§5. おわりに

「三角形の面積」を考える上で、正弦定理の応用のよさを挙げなければなりません。指導の場面においても正弦定理をとり扱う三角比は“長さや角度の換算”と考えれば、生徒にとっては身近なものとして捉えることができると思います。ご意見いただければ幸いです。

《参考文献》

- [1] 『改訂版 数学I』数研出版株式会社
- [2] 『改訂版 数学A』数研出版株式会社
- [3] 『改訂版 数学B』数研出版株式会社
- [4] 岸正倫 著『微分積分学』学術図書出版社

(鳥取県立米子東高等学校)